



植竹中だより



目指す生徒像: 自ら考え、行動できる生徒「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」
〒331-0804 さいたま市北区土呂町352

TEL 048(663)2115

さいたま市立植竹中学校
FAX 048(665)6377

スポーツの素晴らしさ

校長 上続 昌司

11月中旬頃の放課後、武道場に行く用があって入り口のドアを開けた瞬間「こんにちは」と元気よく剣道部の皆さんが挨拶をしてくれました。4、5mは離れていたと思いますが、しっかりと聞こえる大きな気持ちの良い挨拶をしてもらい、私はとても気分が良くなりました。この日の2日前にご来校されたお客さんからも「今、玄関から入ってきたら多くの生徒さんから、本当に気持ちの良い挨拶をしてもらいました」「やっぱり、挨拶してもらおうと気持ち良いですね」と、話してくれました。それから、11月の寒い朝、陸上部の皆さんが、倉庫の掃除をしている中で、とても冷たい水でマットを洗っている姿がありました。普段の生活や部活動を通して、とても大切な学びを得られていることが伝わってきます。また、月末から始まった落ち葉掃きボランティアには、多くの生徒の皆さんが参加してくれました。一生懸命に掃いている姿からは「役に立ちたい」という想いが伝わってきます。

さて、令和7年を振り返ってみると、今年も様々な出来事がありました。少し前のニュースでは、ドジャースが世界一になったことが先ず思い出されます。三連休中だったので、テレビで見た人も多くいたのではないかと思います。日本人選手が、終盤の闘いの中で大活躍し、連日報道されていました。大谷選手は、今年も異次元な活躍で世界中の野球ファンはもちろん、野球をあまり知らない人でも魅了されていることでしょう。佐々木投手も、長いリハビリを経て見事復活し、大活躍してくれました。そして、何と言っても圧巻だったのは山本投手でした。7戦の内4勝すれば世界一となり、一人で3勝する快挙。第3戦は前日完投しているにもかかわらず、延長18回途中では投球練習を始めたことに大きな驚きがありました。その姿をチームメイトが見て奮い立ったと、後ほどコメントしていました。さらに、最終戦で9回途中、大きなピンチの場面で登板したことに驚き、祈るような気持ちで見っていました。どれだけのプレッシャーがあったかは、どんなに想像しても計り知れません。監督やコーチ、チームメイトが山本選手を信頼していたことが、試合後の各選手のコメントから伝わってきます。派手なパフォーマンスをするタイプではありませんが、内に秘めた闘志は人並み外れているはず。日々の努力を、信念をもって貫いていく姿が多くの人の感動へと繋がった闘いでした。正に MVP(最優秀選手)ですね。同じ日本人として誇りに思います。

多くの人に感動を与えることができるスポーツという存在について、改めて考えることができました。その時間は他の事を考えることなく熱中できるのが魅力で、自分自身が動いている時、素晴らしい選手のプレーを見ている時、どちらも楽しむ事ができます。また、スポーツを通して、仲間との交流、時には新たな仲間と繋がっていく事ができるのがスポーツの良さですね。心身の健康の増進にも役立ちます。「上手か上手ではないか」という事よりも、昨日の自分より、今日の自分がどれだけ成長できたか、挑戦することができたか、が大切です。更に中学生の皆さんに臨むことは、生涯続けられるようなスポーツと出会ってほしいという事です。

最後になりますが、この2学期も保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動について、ご理解・ご協力を頂きました事に心より感謝申し上げます。3学期も何卒よろしくお願いいたします。

